



## MGX RPM-XF フロント カードとバック カードの取り付け

この章では、MGX Route Processor Module (RPM-XF; ルート プロセッサ モジュール)、管理バックカード、および高速アップリンク バック カードの取り付け方法を説明します。この章の内容は次のとおりです。

- システムの検査
- 必要な工具と部品
- RPM-XF カードの取り付けと取り外し
- MGX 8850 ミッドプレーンへのバック カードの取り付けと取り外し
- コンソール端末または PC からコンソール ポートへの接続

## システムの検査

RPM-XF フロントカードと MGX-XF-UI（または MGX-XF-UI/B）管理バックカードは、取り付けの準備ができてから開梱してください。設置場所の準備ができていない場合は、カードを出荷梱包のまま保管して保護してください。RPM-XF および対応するバックカードの設置場所が決まり、取り付けを開始できる状態になったら、カードを開梱してください。

発注した RPM-XF、管理バックカード、および他のオプション装置は、複数の梱包で出荷される場合があります。各出荷梱包を開梱するときは、梱包リストを確認して、次の品目がすべて届いているかどうか確認してください。

- MGX RPM-XF と MGX-XF-UI（または MGX-XF-UI/B）



(注) シスコシステムズでは、バックカードを外部デバイスに接続するために必要なケーブルを提供していません。このケーブルは、シスコ以外のケーブルベンダーに注文してください。ケーブルのピン割り当てについては、付録 B 「ケーブルとコネクタの仕様」を参照してください。

また、RPM-XF、MGX-XF-UI、または MGX-XF-UI/B キットにはコンソールケーブルおよび補助ケーブルが付属していません。コンソールケーブルと補助ケーブルは、予備部品として弊社販売代理店に注文することができます。

- 『Cisco Information Packet』 マニュアル
- Cisco Documentation CD-ROM
- オプションの印刷資料、注文書の指定による。

全品目を検査して、輸送による破損がないかどうか調べてください。破損している場合、あるいはシステムの取り付け時または設定時に問題が発生した場合は、製品をお買い上げの弊社販売代理店までご連絡ください。

## 必要な工具と部品

RPM-XF およびバックカードの取り付けには、標準機器として提供されていない工具と部品が必要になります。RPM-XF とバックカードを MGX 8850 シャーシに取り付ける際には、次の工具や機器が必要です。

- No.2 プラス ドライバ
- 静電気防止用リストストラップ
- イーサネット バックカード インターフェイス用ケーブル
- コンソールケーブルと補助ケーブル
  - 標準の RJ-45/RJ-45 ロールオーバー ケーブル



(注) 詳細については、付録 B 「ケーブルとコネクタの仕様」の「ロールオーバー ケーブルの識別」を参照してください。

- ケーブルアダプタ
  - RJ-45/DB-9 メス型 DTE アダプタ (「Terminal」のラベル付き)
  - RJ-45/DB-25 メス型 DTE アダプタ (「Terminal」のラベル付き)



(注) ケーブルについては第 2 章「MGX RPM-XF の取り付け準備」を、またケーブルのピン割り当てについては付録 B 「ケーブルとコネクタの仕様」を参照してください。

- コンソール端末 (ASCII 端末または端末エミュレーションソフトウェアが動作している PC)。9600 ボー、8 データビット、パリティなし、1 ストップビットに設定。  
コンソール端末の接続手順については、この章で後述する「コンソール端末または PC からコンソールポートへの接続」を参照してください。

## RPM-XF カードの取り付けと取り外し

以降では、MGX 8850 ミッドプレーンへの RPM-XF の取り付け手順、および取り外し手順を説明します。



(注) RPM-XF サービス モジュールの取り付けと取り外し手順は、MGX 8850 シャーシの前面からミッドプレーンに取り付ける AXSM など、他のサービス モジュールの場合と同様です。



警告

訓練を受けた有資格者以外は、RPM-XF の取り付けや取り外しは行わないでください。



警告

RPM-XF を取り扱う前に、静電気防止用リストストラップを着用してください。



(注) MGX 8850 シャーシの電源を切る必要はありません。RPM-XF は、システムが動作している間でも、MGX 8850 シャーシから取り外したり、取り付けたりすることができます。

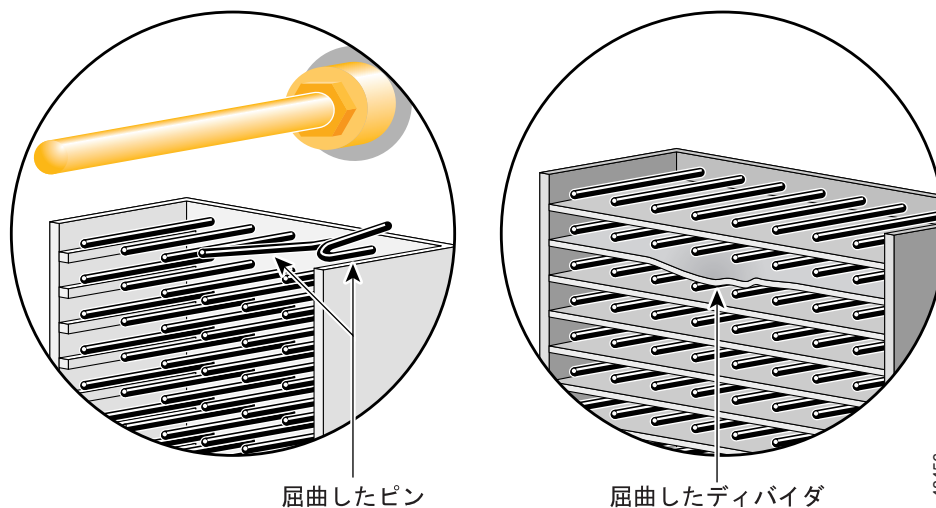
### フロントカードとバックカードの取り付け前の確認事項

フロントカードとバックカードを取り付ける前に、次の点を確認してください。

- バックプレーンのピンが屈曲していないか、あるいはピン列の間にあるディバイダが屈曲していないか確認します (図 3-1 を参照)。

バックプレーンのピンが屈曲している場合は、そのバックプレーン スロットにカードを取り付けないでください。破損しているバックプレーン スロットにカードを取り付けると、カードのコネクタも破損します。

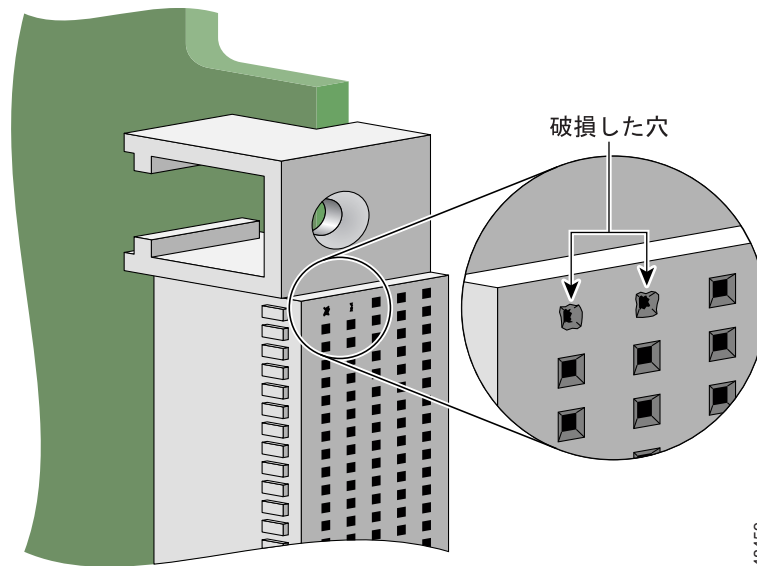
図 3-1 バックプレーンのチェックのポイント



48456

- カードのコネクタの穴が破損していないか確認します (図 3-2 を参照)。  
コネクタの穴が破損しているカードは使用しないでください。コネクタが破損したカードを取り付けると、バックプレーンも破損します。破損しているカードはシスコシステムズにご返却ください。

図 3-2 カード上の破損しているコネクタ



48459

## RPM-XF フロントカードの取り付け

次の手順に従って、RPM-XF を MGX 8850 シャーシに取り付けてください。

- ステップ 1** 適切なスロットのケージ上下のカードガイドに、カード背面の上下の端を合わせます。



(注) カードを取り付けるスロットが適切であることを確認してから、カードを挿入してください。

- ステップ 2** RPM-XF カードをゆっくりと押し込み、スロットの奥まで挿入します。

- ステップ 3** 両方の引き出しレバーを垂直位置で止まるまで押します。



(注) RPM-XF は、隣りのボードの EMI ガスケットとわずかな摩擦があるだけで、簡単に着脱ができます。無理に押し込まないでください。引っ掛かるときは、よく調べてください。

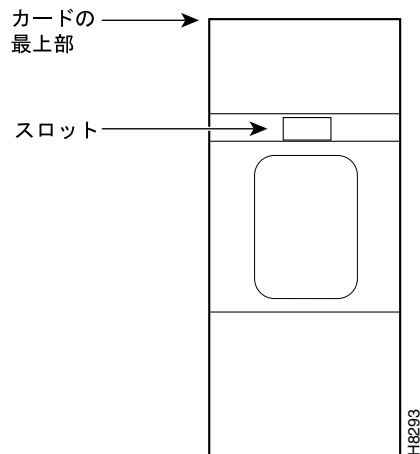
## RPM-XF カードの取り外し

ダブルハイトのフロントカードには、正面パネルの最上部と最下部の両方のイジェクタにラッチが1つずつ付いています（図 3-3 を参照）。



静電気によるカードの損傷を防止するため、カードを取り扱う前に静電気防止リストストラップを着用してください。ストラップの一端は、システムやカードケージ上の任意の金属部分に接続します。

図 3-3 フロントカードのラッチ



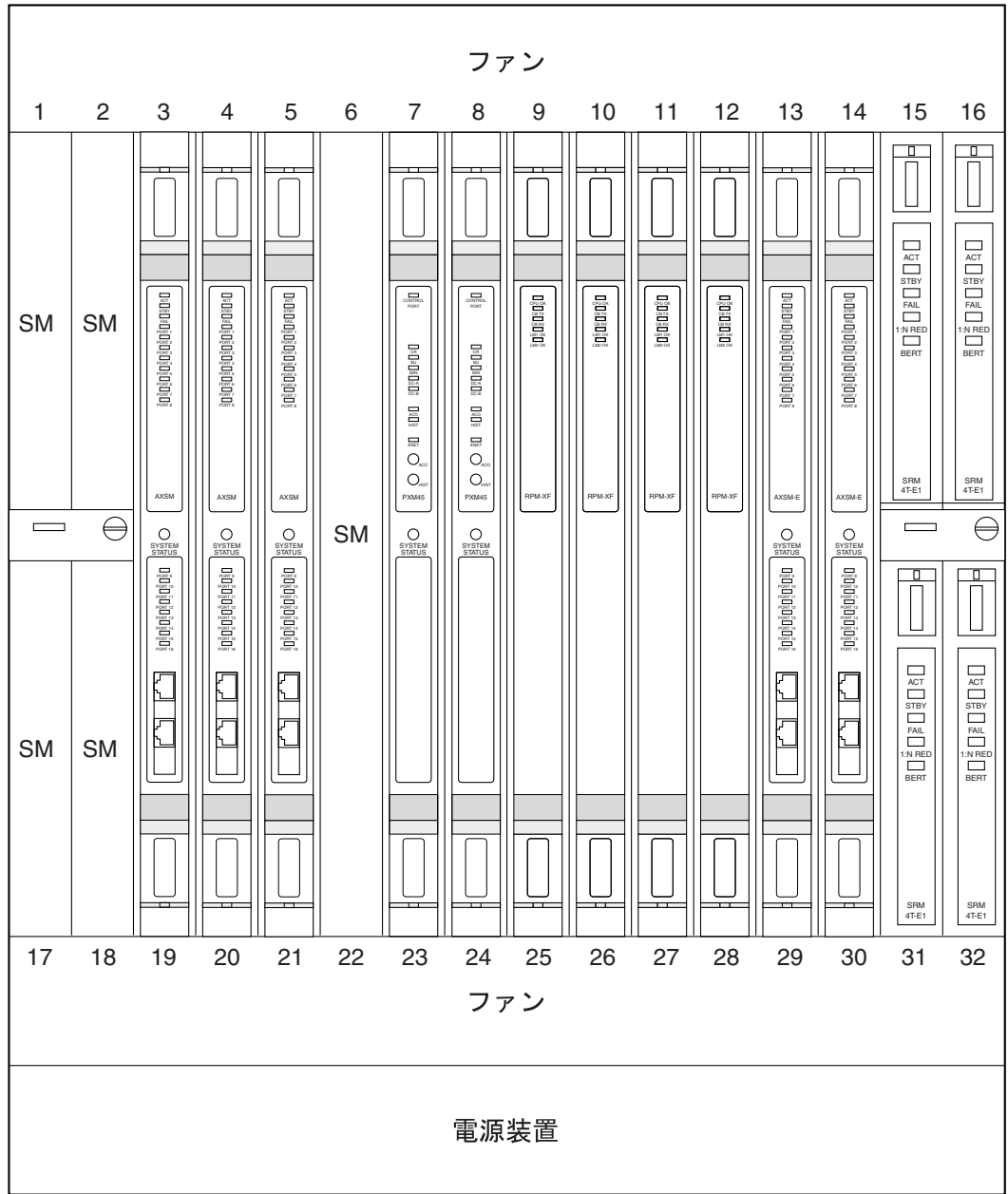
次の手順に従って、MGX 8850 シャーシから RPM-XF フロントカードを取り外してください。

- ステップ 1 引き出しレバーのスロットに小型マイナスドライバの先端を差し込み（図 3-3 を参照）、バネ式のラッチが開くまで、押しながらおよそ 10 度回します。
- ステップ 2 カードをバックプレーンコネクタから外すために、引き出しレバーを手前に倒します。
- ステップ 3 RPM-XF をガイドに沿ってゆっくりと引き出します。途中で引っ掛かった場合は、軽くゆすってください。
- ステップ 4 カードをカードケージからゆっくりと引き出します。取り出したカードは、静電気防止用袋に保管してください。



(注) RPM-XF は、MGX 8850 システムの前面（図 3-4 を参照）にプラスチックのガイドに沿って滑らせながら挿入し、シャーシのミッドプレーンに接続します。RPM-XF を取り外すときは、ミッドプレーンのコネクタから外れるときにある程度の抵抗を感じる場合があります。

図 3-4 MGX 8850 シャーシに取り付けられている RPM-XF (正面図)



76538

## MGX 8850 ミッドプレーンへのバックカードの取り付けと取り外し

以降では、管理バックカードと高速アップリンクバックカードをMGX 8850 ミッドプレーンに取り付ける手順と取り外す手順を説明します。

### バックカードの取り付け

次の手順に従って、管理バックカードと高速アップリンクバックカードをMGX 8850 ミッドプレーンに取り付けます。



(注) 引き出しレバーが2つとも、「in」の位置にあることを確認してください。カードをスロットに挿入するにつれ、レバーはバックカードの端に沿って垂直位置にくるはずですが、

**ステップ 1** 背面カードガイドを、該当するスロット (RPM-XF を取り付けしたスロットの反対側) のカードケージの最上部と最下部に合わせます。



(注) MGX-XF-UI または MGX-XF-UI/B は常に下部スロットに、高速アップリンクバックカードは常に上部スロットに取り付けます。

コネクタ2個で、各360本、合計720本のピンがあります。上部コネクタと下部コネクタは同一の機構です。

**ステップ 2** バックカードをスロットの奥までゆっくり押し、ミッドプレーン上のコネクタにしっかりと差し込みます。



(注) コネクタピンとレセプタクルは、正確に位置を合わせることがきわめて重要です。まず、カードのピンがすべてまっすぐであることを確認します。カードのコネクタとミッドプレーンコネクタの位置が合っているかどうかを確認します。カードはゆっくりと挿入します。位置合わせのために、カードの端を一方に少し押す必要がある場合があります。

**ステップ 3** バックカードの前面プレート上の非脱落型ネジ2本を締めます。

上部ネジと下部ネジを締めて、カードの位置がずれないようにします。ネジは締め過ぎないようにします。カードを固定する程度に締めます。

MGX 8850 シャーシに取り付けられ、ミッドプレーンに接続されているバックカードを図 3-5 に示します。



(注) 図 3-5 では、RPM-XF バックカードがスロット 9、10、11、12 に収められています。MGX-XF-UI カードは下部スロットに、MGX-1GE カードはスロット 9 と 10 に、MGX-10C12POS-IR カードはスロット 11 と 12 に収められていることがわかります。



## バックカードの取り外し

次の手順に従って、バックカードを MGX 8850 ミッドプレーンから取り外します。

---

**ステップ 1** 取り外すバックカードに接続されているすべてのケーブルに目印を付けてから、各ケーブルを取り外します。

**ステップ 2** マイナスドライバを使用して、バックカードの前面プレートの止めネジ 2 本を外します。

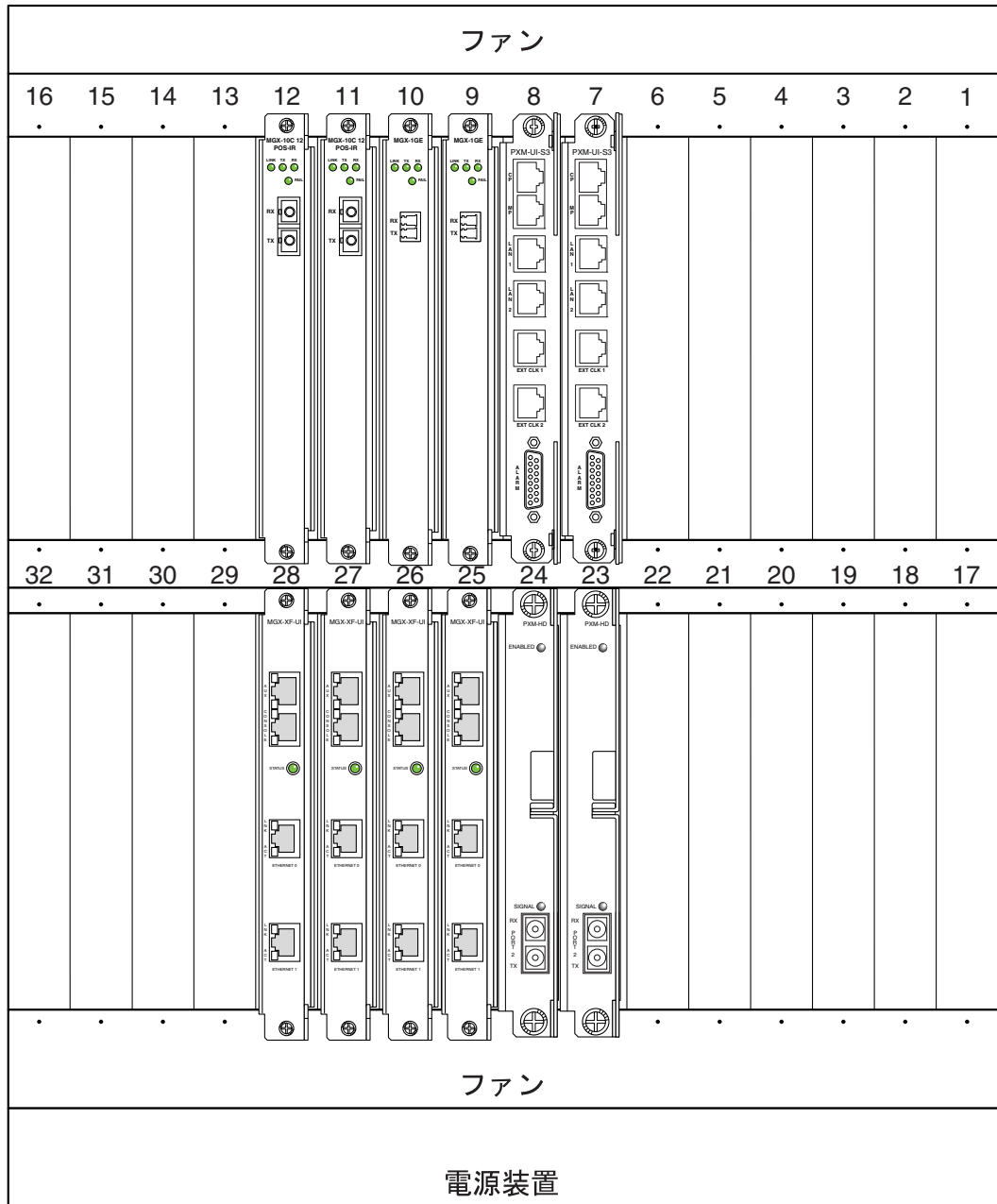
**ステップ 3** 引き出しレバーを 2 本とも、水平位置まで手前に倒します。

これにより、カードを取り外せる状態になります。

**ステップ 4** カードをカードケージからゆっくりと引き出します。

---

図 3-5 MGX 8850 に接続されている RPM-XF バックカード (背面図)



## SFP モジュールの取り付け

次の高速バックカードでは SFP モジュールを使用します。

- MGX-1GE
- MGX-2GE
- MGX-20C12POS

これらカードに SFP モジュールを取り付けるには、次の手順に従ってください。

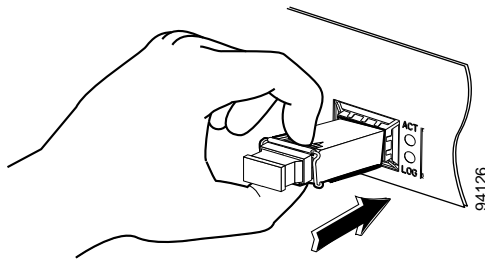


警告

ファイバ ケーブルが接続されていないポート開口部から、眼に見えないレーザー光線が放射されている場合があります。レーザー光線を避けるため、開口部の中を見つめないでください。

- ステップ 1 SFP をスロットに差し込み、所定の位置に納まるまで押し込みます (図 3-6 を参照)。

図 3-6 SFP モジュールの取り付け



注意

ケーブルを接続する準備が整うまでは光ポートプラグを SFP から取り外さないでください。

- ステップ 2 ネットワーク ケーブルを SFP モジュールに接続します。

## SFP モジュールの取り外し

高速バックカードから SFP モジュールを取り外すには、次の手順に従ってください。

- ステップ 1 SFP からケーブルをすべて取り外します。



警告

ファイバ ケーブルが接続されていないポート開口部から、眼に見えないレーザー光線が放射されている場合があります。レーザー光線を避けるため、開口部の中を見つめないでください。



注意

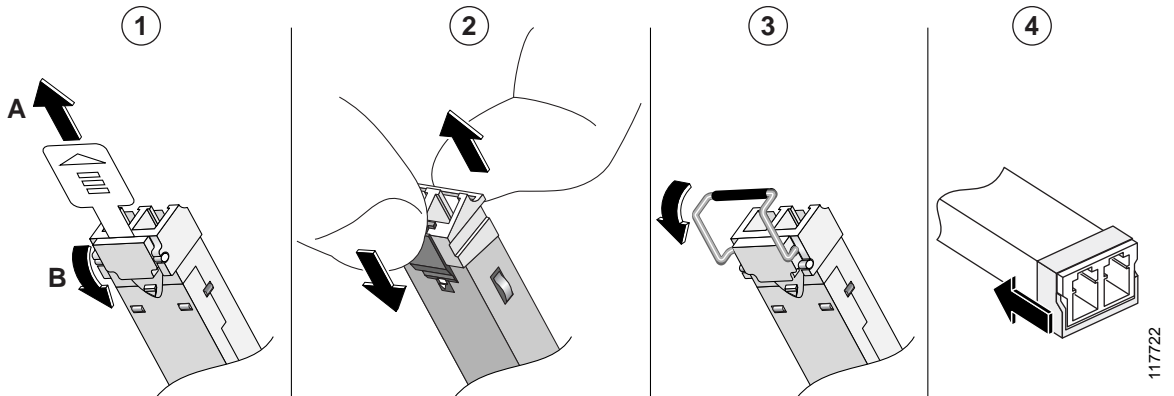
多くの SFP にはラッチ機構があり、ケーブル接続された SFP は所定の場所に固定されています。SFP を取り外すときにはケーブルを引っ張らないようにしてください。

ステップ2 SFP ラッチを取り外します。図 3-7 を参照してください。



(注) SFP モジュールを SFP ポートに固定するためのラッチにはさまざまな方式があります。ラッチ方式は SFP のモデルや技術タイプとは関係ありません。SFP の技術タイプとモデルは、SFP 側面のラベルに記載されています。

図 3-7 SFP ラッチ機構の取り外し



1	スライド式ラッチ	3	ボールクラスプ式ラッチ
2	スイングスライド式ラッチ	4	プラスチック カラー ラッチ



ヒント

ボール クラスプ ハンドルに指が届かない場合は、ペンやドライバなど小型の細長い道具を使って慎重に外してください。

ステップ3 SFP の両側をはさんで取り外します。

## コンソール端末または PC からコンソールポートへの接続

MGX-XF-UI および MGX-XF-UI/B 管理バックカードには、非同期シリアルコンソールポートと補助ポートがあります。これらのポートにより、コンソール端末を使用して、RPM-XF にローカルにアクセスして管理を行うことができます。

次の手順に従って、端末（ASCII 端末または端末エミュレーションソフトウェアが動作している PC）をコンソールポートに接続します。

- 
- ステップ 1** 細い平型の RJ-45/RJ-45 ロールオーバーケーブル（電話用ケーブルに似ている）と、RJ-45/DB-9 アダプタまたは RJ-45/DB-25 アダプタ（「Terminal」のラベル付き）を使用して、コンソールポートに端末を接続します（[図 3-8](#) を参照）。

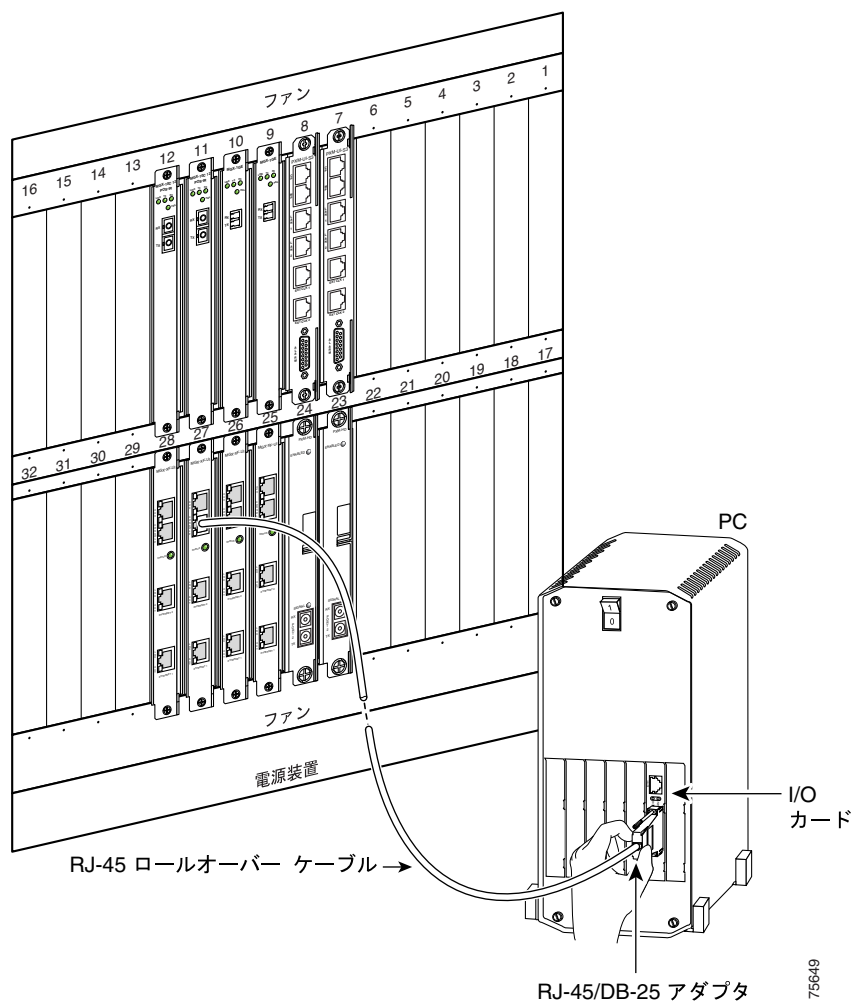
ケーブルのピン割り当てについては、[付録 B 「ケーブルとコネクタの仕様」](#) を参照してください。

- ステップ 2** 端末または PC 端末エミュレーションソフトウェアは、9600 ボー、8 データビット、パリティなし、1 ストップビットに設定します。
- 



- (注)** コンソールポートに関するデフォルトのパラメータは、9600 ボー、8 データビット、パリティなし、1 ストップビットです。
-

図 3-8 MGX-XF-UI コンソールポートへのコンソール端末の接続



(注) ターミナルサーバのコンソール速度を変更すると、RPM-XF が ROMMON モードになる可能性があるため、変更はお勧めしません。これを避けるため、`config-register` を `0x2102` に設定してください。